

親和町会と4丁目町会が合同防災訓練 「日頃の備え、わが身を守る」

11月20日、文成小学校教授センターにおいて親和町会・4丁目町会合同防災訓練がありました。訓練には、総勢100人を超える住民が参加しました。これは、豊島区防災課の呼びかけで行われました。

防災訓練の目的は、災害から住民のいのちとまちを守るために、防災行動力と、住民と防災組織の協力体制の確立です。当日は、一時避難場所として指定された場所に住民が集まり、救援センターになっている文成小学校にまわって避難してから、合同の防災訓練を行いました。避難訓練の一時集合同所は、親和町会は谷端川北緑道、4丁目町会は4丁目児童遊園です。90歳を超える女性も参加し、近隣の方々に見守られながらの避難訓練です。

合同消火訓練では、水ポンプによる初期消火訓練と、プールの水を利用してのD級ポンプによる中継訓練です。当日の訓練は、什器・備品もふくめて日頃からの点検・訓練の大切さを再認識する時でもありました。

新潟中越地震から1年余り、阪神淡路大震災から間もなく12年目を迎えます。

グラッ！私達は身構えます。火の元の点検、避難路の確保…。毎日を「身を守る」点検・訓練の日にし、近隣との関わりを深め、その時に備えたいものです。



まち

池袋本町 スタート号 まちづくりニュース no.38

発行：池袋本町まちづくりの会（仮称）
豊島区住環境整備課
問い合わせ先：住環境整備課
TEL 03-3981-0489
FAX 03-5950-0803
メール bosai@city.toshima.tokyo.jp
編集協力：㈱まちづくり工房

2005年12月15日発行

新しいまちづくりの会がスタート！

去る11月11日、池袋本町の新しいまちづくりが動き出しました。昨年度までの「防災まちづくりの会」と「防災ひろばの会」を発展的に解消し、公募などによる「新しい委員」も加えての船出です。住環境整備課の神田光一課長は、あいさつのなかで、これまでのまちづくりの経緯の概略と今後について次のように語りました（概要）。

これまでの経緯

池袋本町では、平成7年度から豊島区防災生活圏促進事業のもとに、防災まちづくりに取り組んできました。阪神大震災を教訓とし、震災時等に「火をださない」「火をもらわない」ことを眼目として「逃げないですままちづくり」目指すものでした。防災井戸ひろばを3箇所整備し、防災ひろば用地と防災センター用地を取得しました。防災ひろば用地は、現在、住民のみさまの協力を得て、暫定的に開放しています。

防災まちづくりの会は平成8年に発足し、会員のみさまの尽力により活動を継続していただきました。また、防災ひろば用地の取得時には、この用地の活用法を検討していく会として、防災ひろばの会が発足しました。これらの会の活動として、まちづくりの考え方をまとめた、区長への「提言」もいただいています。

住環境総合整備事業として

防災生活圏促進事業は、平成16年度末に10年の事業期間を満了しました。

池袋本町では、改めて住環境総合整備事業としてまちづくりを継続することとなりました。これは、国と都から補助を受ける事業ですが、現在国に対して事業計画を申請しており、承認は今年12月くらいになる予定です。



住環境総合整備事業を進める中では、地区計画等の「まちづくりのルール」を地域の方々と一緒に検討し、策定することも想定しています。

住民が主体

行政だけでまちづくりを進めていく時代ではありません。地域の住民のみさまが主体になり、様々な意見をお聞きしながら、区は「まちづくりのお手伝い」をしていくというスタンスで、住民主体のまちづくりのバックアップをしたいと考えています。地域の住民の方々とは長いお付き合いになると考えています。よろしくお願ひします。



つれづれに一言
新しいまちづくりの会が発足しました。
参加者は、自分が住んでいるまちのために、自分が持っている知恵や力を出し合い、みんなで話し合い、区との協働で、住みよいまちを作っていくという思いで、参集しました。
まちづくりのキーワードは、「人の輪」であり、「安全・安心・信頼」だと思います。それらは、「こころよさ」です。私たちの住む家は、第2の皮膚という見方がされま
家々が立ち並び、生活の機能が詰まっているまちは、「第2の衣服」かもしれせん。衣服はわたしたち人間の皮膚を優しく包み込んでくれます。私たちは、衣服に「こころよさ」を求めます。
住みよきまちの条件も、「こころよさ」だと思います。これは、子どももお年よりも、身体に障害がある人も、ない人も誰もが、どんな時にも求めることだと思えます。
そんなまちをつくっていきましょう。（広報 青山静可）

さまざまな「まちの情報」を教えてください！ 「ためになる」「おもしろい」「埋もれている」など、まちの話は事務局まで！

守る

子どもを守る①

文成小学校長 下田康信

豊島区では区立の全小中学校でセーフティー教室を行っています。文成小では、授業中に不審者が侵入した想定で訓練を行いました。暗号文の校内放送で、全児童が体育館に避難し、教員・主事が玄関で侵入者を防ぎました。

低学年のセーフティー教室では、警視庁少年育成課の方から、腹話術人形との会話を通して犯罪に巻き込まれないための身の守り方を学びました。高学年は、ロールプレイを行い、犯罪被害に巻き込まれそうになったときの対応の仕方、被害から逃れる方法を学びました。不審者に声をかけられて連れていかれそうになったときには、大声を上げて「子ども110番」の家へ逃げ込んだり、区から子ども一人ひとりに貸与されている防犯ブザーを鳴らすなどの訓練をしました。

現在、区内の全小中学校に防犯カメラを設置して、ビデオ録画をしています。さす又も寄贈し

ていただき、教員は池袋警察署から使用法を教わりました。
今後、警視庁直結の学校110番通報を使っての訓練も考えています。これはボタンを押すだけで、パトカー10数台が駆けつける大きな訓練になります。また、受付員の常駐化やオートロックの設置などが検討課題となっています。
学校での努力には限界があります。家庭や地域の皆様が、日頃から子どもたちへ声をかけたり、子どもの安全について積極的に活動したりしている姿を見せることが、子どもを対象にした犯罪を未然に防止する力になります。
地域の皆様による子どもたちを見守るまちづくりを期待しております。



セーフティー教室のようす